

袋井商業5年制化は

問 地方創生で推進している袋井商業高等学校5年制化の実現の見通しは。

答 昨年度に要望書を提出し、今年も県に強く要請している。県教育長からは「商業教育の高度化」の研究会を立ち上げ検討するとの回答を得ている。

小笠山山麓への企業誘致は

問 遅延している小笠山山麓（笠原地区約14ha）への企業誘致の進捗状況はどうか。また、当該地周辺の臭気対策をどうするか。

答 現在引き合いのある企業がある。協議を積極的に進め、年内を目的に企業誘致が出来るように取り組んでいきたい。臭気については、市の臭気規制基準を厳守させるよう働きかけていきたい。

「ひきこもり」支援の強化を

問 市内にも相当数の「ひきこもり」の人が潜在していると考えられる。市は実態の把握をしているか。

答 個人のプライバシーに関わることで把握は困難であり、実態把握は行っていない。全国における15歳から39歳のひきこもり状態にある人は全体の1.57%となっており、本市に置き換えると約400人という数字となる。

市営墓地への合葬墓は

問 墓地に対する意識変化で合葬需要などにも変化が出ている。本市の考えはどうか。

答 核家族化や高齢化で合葬需要は増加すると考える。本年度需要数を把握し、30年度実施設計、31年度合葬墓を整備する。合葬墓の形態は当初の建物型納骨堂を見直し、地下式の樹木型なども含めて今後検討したい。



「袋井商業高等学校5年制化の推進に関する要望書」を提出 (H28.3.31)

問 市の相談窓口はどこか。

答 本市では、引きこもりに特化した相談窓口は設けていないが、複合的かつ多岐にわたる様々な要因の結果として起こるものであり、総合健康センターの総合相談窓口や保健センター、しあわせ推進課、子ども支援室、社会福祉協議会などで相談を受けている。

問 原因は多様であり、専門性が異なる諸機関が参加する地域連携ネットワークの設置、運営が必要ではないか。

答 必要に応じて「静岡県ひきこもり支援センター」、青少年交流スペース「アンダント」、地域若者サポートステーションは「ままつ」や医療機関など、外部の専門機関につないでいる。今後関係機関が集う「こころの健康づくりネットワークショップ」などにおいて、情報交換を行い、連携を図っていききたい。



県から運営委託を受けているデンマーク牧場福祉会 ひきこもり支援・交流スペース「ひとむれ」